

経営比較分析表（令和6年度決算）

宮城県 申間市

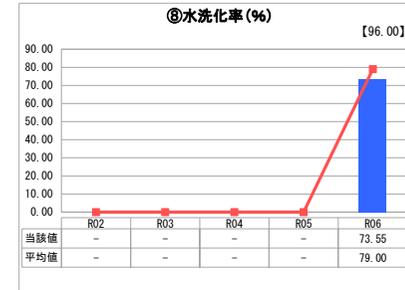
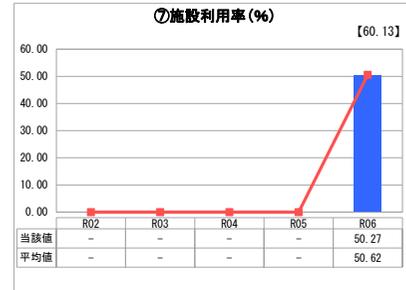
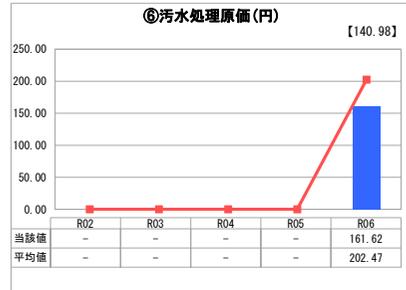
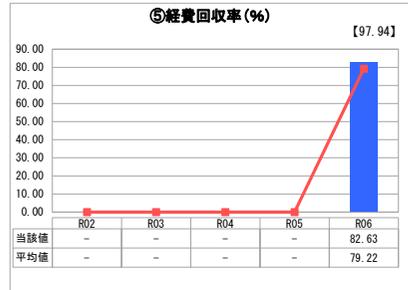
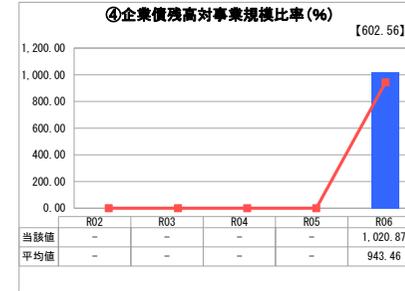
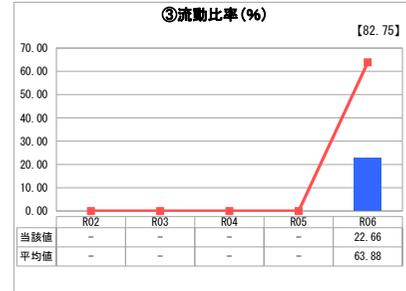
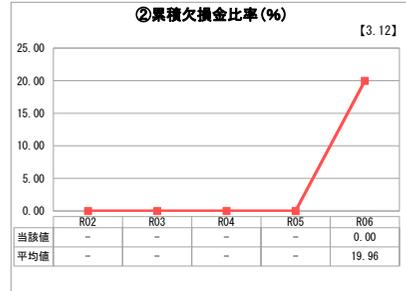
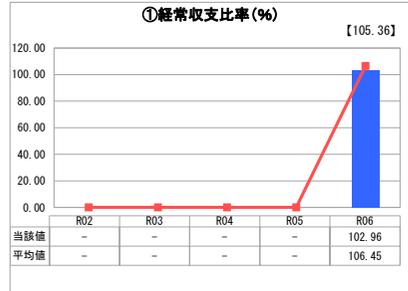
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	71.20	23.86	101.39	2,629

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,047	294.92	54.41
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,773	1.44	2,620.14

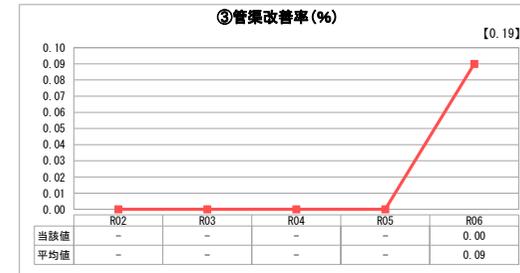
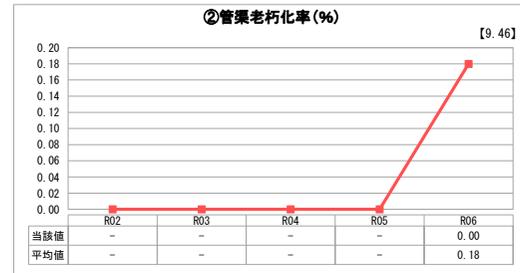
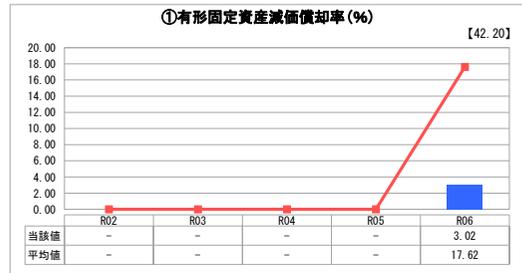
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度から地方公営企業法を適用し、初年度の決算となります。
 「①経常収支比率」については、収支不足分を一般会計からの繰入金等の収益で賄っているため100%を上回っていますが、公共下水道への加入促進を図るとともに費用を抑制し、経営改善に努める必要があります。
 「②累積欠損金比率」については、引き続き0となるように努めます。
 「③流動比率」「⑤経費回収率」については、100%を下回っており、また「④企業債残高対事業規模比率」についても類似団体と比較高い状況であることから、使用料収入の増加を図るため料金改定の検討などを行う必要があります。
 「⑥汚水処理原価」については、今後も効率的な汚水処理に努めていきます。
 「⑦施設利用率」「⑧水洗化率」については、類似団体や全国平均と比べると低い状況にあるため、今後も加入促進を図り、施設の効率性を高めていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

公共下水道は、平成16年に供用を開始し、平成26年度まで汚水の管渠整備を進めてきました。比較的新しい施設であるため、老朽化の状況については、現状では問題はありませんが、今後の施設更新に備え、適切に資産管理を行っていく必要があります。

全体総括

地方公営企業法の適用により、損益情報・ストック情報の把握による適切な経営状況の分析が可能となりました。
 経営の健全化や、公共用水域の水質保全や快適で文化的な生活環境確保の観点からも、公共下水道への加入促進を図る必要があります。
 現在のところ、汚水処理原価は低く抑えられていますが、経費回収率が100%以上となるよう、使用料改定等による収益の確保と費用の抑制を図りながら、経営の健全化に努めていく必要があります。
 施設の老朽化については、施設の長寿命化を図りながら、適切な資産管理を行っていく必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。